

精神と物質はどのように関係しているのか？ 現代科学の未踏領域である

今日の前にコップがあり、その中に水が入っている。今しきりにそのコップに向かって「水よ、波立て！」との念を送り続けているが、一向に水は波立つ気配がない。

今日の前に美女がいる。その美女に向かって私は念を送り続けている。「私を好きになれ！」と。この場合、美女は私を好きにならないかもしれないが、私という存在を意識はするかもしれない。ただこの場合には、たとえそのようなことが起こったとしても、私の精神が以心伝心で美女へと伝わり、美女の精神がそのように反応したのであるから、物質はこの行為の仲介はしていない可能性が強い。

神戸新聞 2019.9.24

### ストレスで増える物質 特定 大阪大チーム

老化に関連するとされる「αクロトロー」というタンパク質の血中濃度が、ストレスを感じている人ほど上昇することが分かったと、大阪大の中西香織助教（内科学）らのチームが海外科学誌に発表した。ストレスは問診や質問票によって判断するのが一般的だが、チームはストレスの状態を客観的に測定できる指標になる可能性があるとして、開発に取り組む。

研究では、定期健診を受けた阪大職員のうち40～60代の男性で持病がない非喫煙者約100人について、問診の回答と血液検査でのαクロトローの血中濃度を分析した。

すると、「ストレスへの対応ができていない」「睡眠で十分な休養が取れていない」と回答した人ほど、濃度が上がることが明らかになった。精神的な問題を調べる質問票への回答との関連では、問題を抱えている可能性が高い人ほど濃度は高くなった。

中西助教は「ストレスを感じている人ほど、濃度が低下しようとするのを補おうと体内でαクロトローが作られ、数値が上昇する可能性がある」としており、詳細な研究を進める。

大阪大の研究イメージ

血液検査結果 → 問診や質問票の回答結果 → 分析 → αクロトロー血中濃度上昇

- ストレスへの対応ができていない
- 睡眠で十分な休養が取れていない
- 精神的な問題を抱えている可能性が高い

αクロトローをストレスの客観指標として開発へ

客観的な測定指標開発へ

「気功」なるものがある。あるといわれている。もし気功が本当に存在するとすると、精神が空間を飛び越えて相手の体に直接に影響を与え、良い効果を生み出していることになる。たとえ気功というものが存在しないとしても、相手が気功の存在を信じているならば、その良い効果が身体（物質）に表れる可能性がある。一種のプラセボ効果である。

こう考えてくると、人体という閉じられた宇宙の中では、少なくとも精神と肉体（物質）は関係しあっていることになる。このことは、私がいまさら言うまでもないが、「病は気から」というように古より知られていた事実である。ただ、なぜその関係性が生じるのかがわからない。ここに現代科学の未踏の領域がある。この領域は、現在騒がれているダークマターやダークエネルギーよりも難解であるかもしれない。